

♪ シニア便り ♪

○定期演奏会の成功に向けて②

第17回定期演奏会・実行委員長 (トランペット) 鈴木 隆起

○一筆吹奏

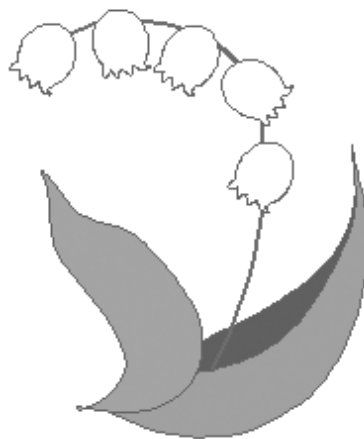
『オヤジが来たりて笛を吹く』	フルート	杉中 剛
『音楽とともに』	クラリネット	鍛冶 美聡
『冬眠?』	オーボエ	吉田 和夫
『人生訓』		志摩 福郎

○もっともっと・楽団創り

『音楽とは何か』 副団長・常任指揮者 中村 暁生

○チューニング広場

『平成22年度定期総会の報告』 伊藤 英明



第 15 号 (2010年6月発行)

発行 北海道シニア吹奏楽団・事務局

編集 シニア便り・編集部

定期演奏会の成功に向けて⑨

第十七回定期演奏会実行委員長

トランペット・パート

鈴木 隆起

今年十月二十四日に予定の「第十七回定期演奏会」の準備を以下の通り進めていますのでお知らせします。

一・演奏曲目

「宇宙」というテーマに基づき、以下の曲目を予定して練習していきます。
『ツアラトウストラはかく語り』より導入部、「テイク・オフ」、ワルツ『天体の音楽』、交響組曲『宇宙戦艦ヤマト』、「アケリアス」、「ムーンライト・セレナーデ」、「木星『JUPITER』ポップスタイル」、「スター・ダスト」、ジャパニーズ・グラフィティ『ウルトラ大行進』
「スター・パズル・マーチ」、「星に願いを」

右記の他に、ホルン・ソロによるモーツァルト「ホルン協奏曲 第3番」を予定しており、まだ曲目は決まっていませんが、共演の旭小学校金管バンドとの合同演奏曲、恒例の曲当てクイズに使用する曲を検討中です。

二・プログラム等の準備

チラシ、ポスター、プログラムに使用するデザインを決定しました。

テーマの「宇宙」をイメージするようなもの：というところで、障がいを持っている方の支援のために描かれたはがきの絵（天空をイメージしたもの）をモチーフにしたものです。

三・予算

定期演奏会の費用は、チケットの販売収入や広告料収入で賄われます。例年、四十五万円程度の収入規模で予算が組まれますが、今回は、景気の低迷などの影響を考え、収入の三十五%以上を占める広告料収入を厳しめに見た結果、収入全体で四十一万円程度を見込んでいます。

細かな出費を抑える努力を行います。一部楽器のエキストラをお願いしたり、より楽しんでいただけるとの演奏会にするために欠かせない出費も多くあります。

チケット販売は、会場の定員との関係から数に限度があるため、ゆとりある予算執行を実現するためには、厳しい状況の中でも、広告料収入に頼らざるを得ないのが実情です。

四・今後の予定

団員の皆さんには、先に広告の募集をお願いしたところですが、前記の予算でも述べましたとおり、広告料収入が決め手になりますので、絶大なご協力をお願いいたします。

この六月以降は、いよいよ演出方法

の検討やシナリオ作りに着手していきます。曲の練習にも熱が入ってくると思いますので、聴いてくださる皆さんの喜ぶ顔を思い浮かべ、楽しみながら励みましよう。

一筆吹奏

『オヤジが来たりて笛を吹く』

フルート 杉中 剛

自己紹介で「フルートを吹いています」というと、意外な顔をされる場合があります。あまりオッサンが手にするような楽器ではないのでしょうか。

兄がヴァイオリンを習っていたのに対して、ランパルのレコードと楽器を買ってもらったのは小学五年生の時だったように思います。一年くらいは習いに行っていたものの、中学も高校も吹奏楽部のない学校だったため、気が向いた時に我流で吹く程度でした。

大学では室内楽のサークルがあったので一年ほどやりましたが、ジャズ研に転向し、フルートよりもサクソフのデタラメ演奏で終わっていました。

ところが、昨年、試奏した楽器の音に惚れ込んで衝動買いをしてしまいました。しばらくは一人で練習していたものの飽きてしまい、色々とホームページを

探すなかで、シニア吹奏楽団の募集を発見しました。トランペットの梶さんから「心が癒される場所だよ」と以前より聞いていたため、逆にどういう団なのだろう？ と複雑な思いで門を叩きました。

今は入団してみて、その意味を悟りつつあります。フラリと見学に来た私を暖かく迎えてくださり、受け入れる度量の広さに感激しました。反面、曲が難しく、細かい音符、高音域、音量や音程など目が回る思いです。くじけそうになることもありますが、音楽を愉しまれる大人の皆さんに支えていただきながら、続けてまいりたいと考えております。

また、毎月の例会（親睦会）があることにもびっくりしました。土曜日の夜は所用が重なるため、なかなか参加することができず、申し訳なく感じております。飲むことは好きですので、お声かけください。今後ともよろしくお願いたします。

『音楽とともに』

クラリネット 鍛冶 美聡

私にとって音楽は大切な友のような存在です。

吹奏楽を始めたのは中学生のときで、クラリネットを選んだ理由は、確か「たて笛に似ているから」でした。それから

すっかり吹奏楽にはまっけてしまい、中学校から短大までの八年間と、社会人になってからも某市民楽団に入り楽器に携わっていました。途中、休んでいた時期もありますが、止めずに続けられていることに自分でも時々驚き、また奇跡的だと改めて感じる今日この頃です。

昨年、私が楽団を探していたところシニア吹奏楽団へのお誘いを頂き、入団することになりました。あれから早くも一年がたち、時が経つのは早いと感じています。

始めは緊張が絶えなかった私ですが、皆さんに支えられ、今では毎回楽しく練習に参加させて頂いています。団の雰囲気にも慣れ(遅いですがかね)すっかりシニア吹奏楽団が好きになりました。

今後はまず音楽を楽しむ、今より美しい音が出せるように努力したいなど、そして近い将来、小さなステージでソロが吹けたら良いなあ、と考えたりしています。ですので、しばらくは続けたいと思っています。少々頼りないクラリネット吹きですが、これからどうぞよろしくお願い致します。



『冬眠?』

オーボエ 吉田 和夫

今年、二月、三月の練習をサボってしまった。

練習場には、我家からバス・地下鉄・地下鉄を乗り継ぎ、その後は徒歩にて練習場に到着する。この間、概ね一時間を要する。時間もかかるし、体力が必要である。更には、練習場の寒さに耐えられず、シニアに関しては冬眠ということになる。

車の運転に関しては、これまで雪路での失敗を二度経験しており、その恐怖心から冬期間の運転を控えるようになった。一度はアイス・バーンですべて雪壁に突っ込み、二度目は轍に弾かれ、これも雪壁に突っ込んでしまった。幸い、同乗者にも通行者にも怪我を負わずことなく、自分の車を破損することでも済んだところである。

それ以来、車の運転は、好天の日の午前十時から午後三時までの間で、二キロ以内の買い出し等に限定している。運転を控えて数年になるかな!

また、寒さに関しては、練習場においてホッカイロを貼り、オーバーズボンを着用しても、なお寒さを感じ、練習どころではないのである。二月、三月の練習は、冬眠と称しサボってしまった、松本先生にご迷惑をおかけしてしまったところである。

夏は、夏で、冷房が効き過ぎ、その都度、隣の菊田さんに調整をお願いするなど、老人に手間がかかり申し訳なく思っているところである。

いずれにしても、年相応の行動に心がけているつもりであるが、ややもすると年令を忘れてしまうことがある。自重しなければ、と思う今日この頃である。

二十周年までは、何とか皆さんについて行きたいと考えており、お酒の呑み過ぎに注意して頑張ろうと思つているところである。

『生活訓』

志摩 福郎

これは、老人を相手にした話であつて「シニア便り」には相応しくないと訝るかも知れないが、吟味して読めば年令・性別に関係なく何人にも適用することだと思ひ、若干お節介とは知りながら寄稿したところである。

《老人の一日五訓》

- 一. 老読(新聞・小説など何でも読むべし)
- 二. 拾笑(一日に十回は笑うべし)
- 三. 百深呼吸(一日に百回は深呼吸すべし)
- 四. 千字(一日に日記・手紙など千字は書くべし)

五. 萬歩(一日に一萬歩は歩くべし)
これは、老人を対象とした講演会における「老人の健康」と題する何かの、一説である。

内容は、老人だけでなく、何人にも適用するのではないかと思う。

・新聞については、何人も読んでいるところであるが、
・一日に十回も笑うことがあるだろうか。「笑う門には福来たる」というから、出来るだけ笑うことに努めてはどうか?

・深呼吸については、管楽器奏者は必然的に実行していることとなる。

・一日千字については、日記を毎日といつても千字に及ぶだろうか。難しいところであるが、書くことを習慣とすることと見受けたり。

・一日萬歩は、なかなかむずかしい。意識して歩けば成せるが。とは言つても中村先生は毎日の早朝ウォーキングで実践しているとのことである。大いに見習つて毎日歩くことが寛容である。

《木瓜(BOKU)の予防七訓》

- 一. 散歩する(脳の血流を活発にする)
- 二. 新聞を読む(特に、声を出して読む)
- 三. 料理を作る(手を動かすこと)
- 四. 社会と交わる(刺激を受ける)
- 五. 電車・バスにて外出する(緊張感を保つ)

六．日記をつける（何があったか思
い出せる）

七．恋愛（若さを保つ）

これは、民間TV放送での専門医の
助言である。近年、BOSとは言えず、認
知症と言ひ替えているが、あえてその
まま表現しているところに意味がある
のかと思う。

前六項目は、普段の生活の中で無意識
に行動しているものばかりであり、あ
えて意識するとすれば、老化が進んで
いると思わざるを得ないが、如何でし
ようか。何れにしても、六項目全てが刺
激材料であると思う。

恋愛については、個人差があり年を重
ねると全てが枯れ、そんな気力も体力
も持ち合わせていないのが一般的と思
われるが、如何でしょうか。どうしたら
若さを持ち続けるにあると思う。

普段の生活の中で、意識しないで行動
することが良いのではないのでしょうか。
老人の一人として……

ペンネーム・志摩福郎さんから「エ
ッセイ」を寄せて頂きました。志摩さん
をご存じの方も多しとお聞きしました
ので、敢えて実名は明かしません。現
在も活躍されている団員です。

（伊藤）

◆もつともつと・楽団創り◆

『音楽とは何か』

副団長・常任指揮者

中村 暁生

長い間、音楽に関わってきていま
が改めて「音楽とは何か」と考えると、
原則的なこと、他の芸術との比較、また
私たちがしている演奏ということをど
のように考えるのか等々、いろいろな
課題が見えてきます。これらのこと
について日ごろから考えていることの
一端を書きたいと思います。

広辞苑や音楽辞典を見ると「音楽と
は音による芸術である。音楽とは音に
よる時間の表現である。」等と出てきま
す。さらに三つの要件として「①材料に
音を用いる。②音の性質を利用して組
み合わせる。③時間の流れの中で材料
を組み合わせる。」を挙げています。

絵画や彫刻のように具体的な形を持
った芸術は保存状態さえ良ければ何百
年の歳月を経ても作者の意図や情熱、
息吹を感じ取ることが出来ます。それ
に比べると音楽は瞬間的に消えて無
なる目には見えない空気の振動の連鎖
でしかありません。そして、ここが最も
重要な点ですが『ある音を選んで聞く、
ある音は選んで聞かない』という人間
の性質（脳のメカニズム）に依存して

成り立っていることです。雑踏の中
でも大事な話は聞き取れますし、オーケ
ストラのフォルテツシモの伴奏の中で
聞こえてくるヴァイオリンのソロを考
えると納得できることです。

先ほど「音楽は瞬間的に消えて無
くなる……」と書きました。それに対して
「録音や録画があるじゃないですか」と
言う人がいますが、マイクロフォンや
レンズを通して機械的に処理されたも
のは、販売を目的に貸切のホールやス
タジオで演奏の部分部分を切り貼りし
て完璧に仕上げられた商品と同様「再
現芸術」と呼ばれるもので、別のもの
として考えられています。

ところで作曲をする人は、自分の考
えや感情を表現し記録する手段として
楽譜を書きますが、実際にそれが音に
なつて初めて作品として完成する（音
楽になる）わけで、楽譜そのものは単
なるメモか印刷物でしかありません。

現代のシンガー・ソング・ライター
や十八世紀頃までの作曲者自身による
自作自演以外は全て、不完全でありな
がら無限の可能性と多様性を持つ人間
の行為（演奏）を通して初めて音楽に
なるわけです。生まれも育ちも体形も
経験も違う他人の手を経て音楽になる
わけですから、同じ楽譜を使つても結
果としてそれぞれ別の表情と価値を持
つた音楽が出来上がることになりま
す。そこが音楽の面白さの一つでもあり、
演奏団体としての私たちの存在価値も

あるわけです。

それでは作曲者（楽譜）と演奏者が
居れば音楽が成立するかと言うともう
一つ大事な要素が必要で、自分自身
や仲間だけで演奏を楽しむ場合でも必
ず聴く側に立つた部分を共有していま
すし、作曲者も演奏者も作品や演奏を
他の人に聴いてもらうことを前提にし
ていますから、鑑賞という行為が加わ
つて初めて音楽が完結すると言えま
す。余談になりますが、日本の代表的指
揮者であった岩城宏之氏は著書の中
で「世界一のオーケストラと言われて
いるウィーンフィルは、同じ曲でも聴衆
の年齢層やその日の天候に応じてテン
ポや音色を変えて演奏する」と書いて
います。ここまで考えると一つの曲

（楽譜）が演奏する人や聴く人、また
時間や場所などの条件の変化に影響さ
れながら千変万化していく音楽の不思
議さ、あいまいさ、だからこそある無限
の魅力を改めて感じざるを得ません。
（この項終わり。「良い演奏とは」につ
いては次号）



平成二十二年度定期総会の報告

去る五月十五日に平成二十二年度定期総会が「中村屋旅館」で開催されました。林団長が今年も元気な姿を見せられ、懇親会にも参加されて団員との交流を楽しんでおられました。

総会は、委任状提出者を含めて出席者多数により総会成立が確認され、開会宣言の後、中村副団長からこの一年の総括を含めた挨拶がありました。

・「下手の横好き大集合」でスタートした団も「上手で、大好き」な方々が次々と入団され、変貌をとげている。
 ・昨年は「ねんりんピック」「石狩緑苑台小学校・みどりの広場」「シルバ―ハイツ」と定期演奏会以外の依頼演奏の貴重な経験を積むことができた。
 ・団にとって大きな財産になった。
 ・練習には何時も大勢の団員が参加されており、団としての音が大変充実してきている。

・昨年からパート別で実行委員会を始めたが、既に来年の実行委員予定者からの意欲的な提案も出されており、団の発展にとって大いに期待できるものとなってきた。

挨拶の趣旨は以上です。
 その後、林重男さんを議長に選出して議案の審議に入りました。

最初に柿岡事務局長から平成二十一年度事業報告（団員構成状況、依頼演奏会の実施状況、事務局体制の充実など）及び、決算報告、昨年の実行委員の菊田理事から第十六回定期演奏会の実施結果報告があり拍手で承認されました。

続いて柿岡事務局長から、平成二十二年事業計画について「情報の共有化や団員相互の意思疎通を図るために『シニア便り』の年三回発行と編集部強化、及びホームページの団員専用掲示板の活用を図る」「演奏力の更なる向上を目指して元プロの演奏家や吹奏楽指導経験をもつ団員によるアドバイザー支援体制の導入」「地域文化の発展に寄与するために、訪問演奏の要望などに積極的に応えていく」などの取組と、平成二十二年度予算案について提案説明があり、拍手で承認されました。

また、今年度の実行委員会であるトランプット・パートの鈴木実行委員長から第十七回定期演奏会の実施計画について、「予算については、チケット収入が会場の収容定員の関係から頭打ちのため、新規の広告開拓など全団員の協力が必要である。支出については諸経費の見直しなど節約に努める」「司会者は昨年好評だった加藤真奈美さんに引き続き依頼する」等の提案があり、拍手で承認されました。

最後に、柿岡事務局長から役員候補について、前渡辺事務局長兼理事の

退任に伴い、現柿岡理事が退任して事務局長専任に、これによる理事二名の欠員補充と、団員数の増加に合わせて理事一名増の、新理事三名の推薦が提案され承認されました。これをもって総会は無事終了しました。

その他、意見交換では「アドバイザー支援の具体的な実施方法について、団員の意見や要望を聞きながら進めていく」「依頼演奏については、基本的には参加可能な団員で対応するが、それではパートが揃わない場合もでてくるので、必要なパートには参加のお願いする事もあるし、エキストラをお願いする事もある。場合によっては依頼を断る場合も出てくる。これはその都度判断して行くことになる」等の質疑応答がありました。

総会で承認された新しい役員体制は次の通りです。

団長	林 正輝
副団長	中村 暁生 (常任指揮者)
理事	石井 邦紀 (副指揮者)

石田 由紀	伊藤 英明	菊田 貴子	高橋 章子	渡辺 昭夫
-------	-------	-------	-------	-------

監事	松本 良一	山田 光国
事務局長	柿岡 武弘	

● 編集余録 ●

これまで「新入団員からのごあいさつ」と言うタイトルで、皆さんからのご挨拶を掲載してきましたが、新入団員も少なくなりましてので、広く団員の方々のメッセージを掲載しようとタイトルを変えることにしました。

「二筆吹奏」こんな熟語がある訳ではありませんが「楽器を奏でるがごとく一筆スイスイと書いてみませんか？」と言うような想いを込めて新しいタイトルを考えてみました。編集部から皆さんに執筆をお願いすることもあるかと思いますが、その際はよろしくお願い致します。
 (伊藤)

伊藤さんから「二筆吹奏」というタイトルを頂いたとき、粹だなあと感じました。これからはいろいろな方に吹奏楽に対する思いを自由に書いて頂けたらなと思っております。みなさんの吹奏楽との出会い・あゆみ・アドバイス・雑学など……。個人的にはなぜ今の楽器を選んだのか。あるいはやらされたのが始まりか(笑)などが知りたいです。

こちらからお願いすることもありますが投稿も大歓迎です！
 (加藤)